

泌尿器科

泌尿器科の特徴のひとつは、他診療科と競合する疾患があまり無く、予防から診断、治療、さらには緩和医療に至るまで、内科的にも外科的にもひとりの患者さんを一貫して診ることができることだと思います。

また、癌治療をはじめ、生殖・移植というような21世紀の医療と考えられている分野の多くを担当していることも大きな特徴です。

泌尿器科初期研修では、原則としてスタッフドクター（助教以上）・後期研修医（医員）とグループとなって、各患者への診療にあたることとなります。主に、入院患者の診療を中心に、泌尿器科疾患の理解を深め、泌尿器科分野にとどまらない外科的・内科的な基本的手技についても習得を目指します。スタッフらによるきめ細かい指導によって1年次での研修でも十分対応可能な体制となっています。

また、多数の基幹病院が関連施設となっており、大学病院外でも適宜泌尿器科研修が可能です。

■ 研修が推奨される診療科

- ✚ 消化管外科
- ✚ 腎臓内科
- ✚ ICU/初期診療・救急科
- ✚ 麻酔科
- ✚ 腫瘍内科
- ✚ 放射線診断科、治療科 など

■ 診療科の主な症例と症例数

当科は泌尿器腫瘍学をメインテーマとしていますが、排尿機能学・移植・生殖医療・小児泌尿器科学・尿路結石症・感染症など良性疾患にも幅広く対応しています。

京都大学泌尿器科での近年の年間手術数は、尿路生殖器癌 約300例、副腎腫瘍 10-20例、前立腺肥 大症 30-40例、腎移植 4-7例、小児泌尿器 20-30例 程度で推移しており、特に体腔鏡下手術件数は本邦でも最大規模を維持しています。

2011年4月からロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除を導入し、現在までにすでに300例以上の症例数となっています。現在では腎部分切除・膀胱全摘術・腎盂尿管移行部狭窄症根治術にもロボット手術を導入し、低侵襲医療を実践しています。さらに単孔式体腔鏡手術や人工括約筋埋め込み術などの最先端の高度 先進医療も積極的に導入しています。

手術症例以外にも尿路生殖器癌に対する化学療法・分子標的治療、腎移植後の全身管理など総合的な知識が習得できる環境が整備されています。

■ 取得できる認定医・専門医

泌尿器科専門医6年、泌尿器科指導医11年、腹腔鏡手術認定医9年
他にがん治療認定医、腎移植認定医、小児泌尿器科認定医など取得可能。

■ 他科研修の可能性

あり（人工腎臓部、外来化学療法部、検査部等）

■ 留学の可能性

あり（大学院卒業後、毎年1-2名海外留学）
留学先としては北米・欧州・オセアニアなど。

■ 関連大学病院

宮崎大学、兵庫医科大学、関西医科大学ほか多数。
詳細は京都大学医学研究科泌尿器科学教室ホームページを参照してください。
<http://www.urology.kuhp.kyoto-u.ac.jp/>

■ 後期研修修了後の進路

大学院または大学病院・関連病院勤務、希望があれば他病院への就職。

■ 初期研修用プログラム「大文字会フレッシュ会員」

卒業前あるいは必修研修の期間に、将来の専門に泌尿器科を考え、京大泌尿器科の「専門医教育プログラム」参加を考えている方、また、卒後臨床研修中にも泌尿器科の専門知識や学会への参加を積極的に希望する方に、京都大学泌尿器科同門会「大文字会」は「フレッシュ会員」制度を導入しています。

年会費無料で、会合の案内や学会情報の配信などを通じて、入局までの期間を見守っていくための気軽に活用可能なシステムです（詳細は泌尿器科HPよりお問い合わせください）。

案内する研究会等：泌尿器科マンスリーミーティング（年5回）、泌尿器科手術研究会、関西地方会、ほか

■ 診療科からのメッセージ

泌尿器科は、今後の少子高齢化社会において、非常に重要な役割を担う診療科となると考えられます。また、診療範囲が非常に広く、各人にあった専門分野が必ず存在する科とも言えるでしょう。

京都大学泌尿器科は、「泌尿器科プロフェッショナルの育成」をモットーに教育に力を入れています。日本全国に関連施設が存在しており研修先にも不自由しません。

もし興味のある学生・研修医のみなさんは気軽にスタッフへ声をかけてください。見学も随時可能です。一緒に新たな泌尿器科学へチャレンジしていきましょう！